

Safety Report

セーフティポ ライダー

体験型実技講習会「グッドライダーミーティング」が「Basic Riding Lesson」へ！ 講習内容も初心者向けに刷新

二輪関連の業界団体である(一社)日本二輪車普及安全協会(以下、日本二普協)は、「グッドライダーミーティング(以下、Gミーティング)」という一般ライダーを対象にした体験型実技講習会を全国的に展開してきた。この講習会が2024年度より「Basic Riding Lesson(以下、BRL)」に名称変更し、新たなスタートを切った。



5月4日に埼玉県警察運転免許センターで開催されたBRLには68名のライダーが参加

初心者(ビギナー)を中心とした安全運転講習会に生まれ変わる

1991年から始まったGミーティングは、もともと初心者のための講習会だったが、次第に中級者がリピーターとなり、受講者の大半を占めるような状況も散見された。

日本二普協 理事・安全本部長 荒井龍介さんは、今回の名称変更の背景を次のように説明する。「コロナ禍においては、密を避けた移動手段として二輪車が注目され、出荷台数と二輪免許取得者が増えました。しかし、二輪免許の教習には路上教習がないため、免許を取って公道を走ろうとすると、不安を感じて自信を失ってしまい、せっかく購入した二輪車に乗らなくなるケースもあるようです。このようなユーザーを生み出さないためにも、初心者(ビギナー)の不安を解消し二輪車本来の楽しさを感じていただく場を提供することが必要だと考え、Gミーティングの位置づけを見直すことにしました。見直しを担当した作業部会では、まず「初心者」とはどのような方々なのかを議論し、次のように定義した。

- ・一般公道の走行に不安を抱えている方
- ・自動二輪免許(原付含む)取得後、間もない方(おおよそ1年以内)
- ・長いブランクがあって、運転操作に不安を抱えている方
- ・運転は不慣れだけど、バイク仲間が欲しい方

これに該当する人が優先的に受講できる講習をめざしたのである。初心者向けであることをより強く打ち出すため、名称をGミーティングからBRLへと変更。これに合わせ、講習のカリキュラムも大きく変えることとなった。

「Gミーティングのカリキュラムは、各都道府県で行われている二輪車安全運転大会の競技にも対応できるようなものでした。このままでは初心者にとってハードルが高いので、『走る』『曲がる』『止まる』という初心者に必要な課題を選別しました。各課題の難易度をGミーティングに比べ下げたことで、初心者が取り組みやすくなっていると思います」と日本二普協 安全本部安全普及部長 青木務さんはいう。

青木さんはBRL開始に向け、現場で指導を担当する各地域の二輪車安全運転推進委員会の安全運転指導員と意見を交換。「受講者は初心者中心になるということで、指導員への負担も増えることを理解していただきました。私たちが作成したカリキュラムは、あくまで基本です。地域によって会場の広さや、路面状況などが異なるため、具体的な実技課題は各都道府県で柔軟に対応できるようにお伝えしています」。

BRLへの移行に伴い、これまでは具体的に示していなかった指導員1名当たりの受講者数も明確にした。「講習中は、どんな小さな事故も起こしたくありません。原則として指導員1名に対して受講者は3~5名としました(超初心者の場合は受講者2名に指導員1名がつく)」。

こうして、GミーティングはBRLに生まれ変わり、2024年4月から全国各地で始まった。2024年度は45都道府県で99回の開催が予定されている。

初参加~3回目までの人が優先的に受講できる埼玉県のBRL

5月4日、埼玉県二輪車普及安全協会(以下、埼玉県二普協)と日本二普協、埼玉県警察が主催するBRLが開催され、68

名のライダーが会場となっている埼玉県警察運転免許センター(埼玉県鴻巣市)に集まった。指導を担当するのは、二輪車安全運転推進委員会の安全運転指導員と埼玉県警察交通機動隊の白バイ隊員である。

埼玉県のBRLは、県内在住で二輪車防犯登録制度*に加入していれば受講することができる(二輪免許保有者で車両は各自持ち込み)。BRLとなったことで、初参加~3回目までの人を優先受付するようになった(優先受付の条件は各都道府県が独自に設定)。

実技は受講者の自己申告で超初心者クラスとBasicクラスに分かれて行われる(途中でクラス変更も可、クラス分けは各都道府県で異なる)。この日、超初心者クラスを選択した受講者は8名だった。

超初心者クラスを担当する指導員は「皆さんは免許を取得されているので公道を走行する資格はお持ちです。後は、たくさん走ってバイクに慣れるため、Basicクラスの倍走することを目標にしましょう。そして、運転中は行きたい方を見る、ハンドル(グリップ)をギュッと握らない、この2つを皆さんに身につけていただけるようにしたいと考えています」と講習の主旨を説明した。

超初心者クラスの受講者は、まず短い距離での発進・停止を繰り返し、その距離を長くしていく。指導員が広く遠くを

見ること、丁寧にやさしいブレーキを意識してもらうためのアドバイスを行った。そして、Uターン、市街地走行などの課題に取り組んだ。

1年ほど前に二輪免許を取得したという女性は「公道を走っていてヒヤッとするのが多かったので、先月、超初心者クラスを受講しました。今日も、その時と同じ内容だったので、前回消化不良に終わった部分をクリアにできました。指導員の方に『前回より良くなっています』といわれ、自信ができました」と充実した表情を浮かべた。1ヵ月前に購入したばかりのHonda CBR250RRで受講した男性は「30年ぶりにバイクに乗り始めました。苦手のUターンを克服したいと思って初めてBRL(超初心者クラス)に参加しました。指導員の方々が私の弱点を見極め、改善のために具体的なアドバイスをいただきました。1日でUターンが上達したので自分でも驚いています」と笑顔で語った。Gミーティングを含め20回以上受講しているという女性は「初心者向けの講習になったので、自分には物足りない内容かと思ってBasicクラスに参加しましたが、そんなことはなく、基礎的な運転技術を学ぶ良い機会になりました。特に、道路外への左折で段差を乗り越える練習は実用的な課題だと感じました」と会場を後にした。

* 二輪車の盗難防止と万が一の盗難時の早期発見を実現するためのシステム。二輪車防犯登録取扱販売店で登録ステッカーとユーザーカードが発行される。



超初心者クラスでは最初に短い距離での発進・停止を繰り返し、広く遠くを見ることや、丁寧にやさしいブレーキを意識してもらう



Uターンの練習では、指導員が立っているところに視線を送ることで、上体を行きたい方向へ向けられるように誘導



埼玉県二普協では「道路外への左折」という新規の課題を追加(Basicクラス)。道路左側にあるガソリンスタンドや店舗等の施設に入る場面(左折し歩道に乗り上げる状況)を想定したもの



コースには四輪車との右直事故を想定した場面を設定(Basicクラス)。右折待ちをしているトラックの脇を通過する際、対向右折車に注意してもらう



日本二普協 理事・安全本部長 荒井龍介さん(左)と安全本部安全普及部長 青木務さん(右)

二輪車安全運転推進委員会の安全運転指導員と埼玉県警察交通機動隊の白バイ隊員が受講者一人ひとりの運転を見ながら適切なアドバイスを行った